

1 文章の組み立てをくふうし、中心のはっきりした文章を書きましょう。
2 段落の初めは、必ず一字下げて書き始め、段落ごとに行を変えましょう。

() 月 日 曜日

伝統をつなぐボランティア

野田 さくら

「めんどくさいなあ」
そんな事を言いながら、ほうきを持って落ち葉を集める。

私は、五年生のときから学校へ登校後、毎朝ボランティアをしている。四年生のときまでは、五・六年生がやっていたところを見て、先生が

「これからは毎朝ボランティアをしましょう。自分でどこをすればいいのか見つけてください。」

と言った。それを聞いた私は「めんどくさいなあ」という気持ちもあつたけど、やるからには「よし、がんばるぞ」という気持ちで取り組んだ。だけど、何日か経つと、だんだんやる気がなくなつて、なんで毎朝ボランティアをしなくちゃいけないんだろう。と思うときもあつた。クラスでは、やらない人も増え

No. 1

3 詩はどの行も三ばんめのマスから書き頭をそろえましょう。
4 書き終ったら、何回も読み直して、まちがいを直したり、書き足りないところを書き足し、むだなところはけずりましょう。

(不許複製)



1 文章の組み立てをくふうし、中心のはっきりした文章を書きましょう。
2 段落の初めは、必ず一字下げで書き始め、段落ごとに行を変えましょう。

() 月 日 曜日

てきた中、一人がかんばっている友達を見か
けた。それを見た私は「すごいなあ」と感心
した。お兄ちゃんにも聞いたら、高学年にな
ってからは毎朝ボランティアアをしていたそう
だ。今まで、高学年がボランティアアを続けて
きたおかげで、野里小学校は、きれいに気持
ち良く過ごせていたんだなあと思いました。
私は、毎朝七時三十分くらいに学校に着くよ
うに登校して、時間いっぱいまでボランティア
アをかんばんった。たまに、校庭で走り回って

いる人を見て、「いいなあ」と思うときもあっ
たけど、毎朝がかんばった。外だけではなく雨
のときにはみんなが学校の中をきれいにした。
そんな感じでボランティアアをかんばんっている
と、先生方が
「五年生のみんなは毎朝ボランティアアをして
いてすごいね。」
「みんなのおかげで学校がきれいになるよ。」
と、ほめてくれた。こんなことを言われて、
うれしかっただし、これからもがんばろうと思

3 詩はどの行も三ばんめのマスから書き頭をそろえましょう。
4 書き終ったら、何回も読み直して、まちがいを直したり、書き足りないところを書き足し、むだなところはけずりましょう。

(不許複製)



- 1 文章の組み立てをくふうし、中心のはっきりした文章を書きましょう。
- 2 段落の初めは、必ず一字下げて書き始め、段落ごとに行を変えましょう。

(月 日 曜日)

った。
 私は、今、六年生になりました。六年生に
 なってからも、五年生と同じようにボ
 ランティアをがんばっています。今までの六
 年生がやっていたことを次は、私たちがやる
 番です。卒業まで、後、半年。これまで、お
 世話になったこの学校をもっともっときれいに
 したい。そして、みんながあこがれるボラ
 ンティアを続けて、下級生にバトンタッチし
 ていこうと思う。

- 3 詩はどの行も三ばんめのマスから書き頭をそろえましょう。
- 4 書き終ったら、何回も読み直して、まちがいを直したり、書き足りないところを書き足し、むだなところはけずりましょう。

(不許複製)

